一般社団法人
ALCE 言語文化教育研究学会
Association for Language and Cultural Education

第105回例会

対人援助職養成のための専門職教育と非人格化の可能性

―臨床実習における医学生の専門用語使用と感情表現の変化―

■ 話題提供者 ■

安心院康彦さん（帝京大学）

■ 日時 ■

2026年2月7日（土）14:00～16:00（日本時間）

■ オンライン（Zoom）開催 ■

お申し込み

- 参加費無料
- 非会員の方もご参加になれます。

近年、国内外において医師の患者への共感（empathy）の低下が課題となっている。話題提供者は、医師養成の過程で医師の患者への共感の低下が発生しているのではないかという仮説にもとづき、救急科での臨床実習を終えた医学生の感想に含まれる医療用語（MT）と非医療用語（NW）、および感情表現（EE）の使用状況を定量的に検討した。その結果、医学生が臨床実習を重ねる過程で、実習後の感想に含まれる感情表現が減少し、医学専門用語の比率が上昇する傾向が見出された。このような調査結果から、臨床実習の進行に伴い、医学生の医療知識体系がより構造化されたことが語彙使用に反映された可能性が示唆された。

本例会では、上述したような調査結果の解釈の妥当性を検討したうえで、医療をはじめとする対人援助職を養成するための専門職教育には、専門用語の獲得が進む過程で、援助対象者（医療においては患者）を相対的に非人格的なものとして扱ってしまう作用がある可能性を確認する。そのうえで、対人援助職養成のための専門職教育において、専門用語の獲得と援助対象者への共感をいかに両立させるかに関し、議論する。

お問い合わせ：言語文化教育研究学会企画委員会（project@alce.jp）